

■学会誌 福祉のまちづくり研究「歴史的建造物のアクセシビリティ考」高橋儀平氏

- ・歴史的建造物イコールアクセス不可能ということではなく、一方ですべてアクセシブルにする必要もない。
- ・紹介している事例。

施設名	改修例
長野善光寺	1998年傾斜路などバリアフリー改修
北京・故宮（世界遺産）	2008年傾斜路などバリアフリー改修
カンピトリオ広場（ローマ歴史地区）	地下博物館まで階段昇降機
ベルヴェデーレ宮殿（ウィーン）	エレベーター設置
モン・サン・ミッシェル（フランス）	（入口300mまでは低地部の参道、以降は日本の城郭建築と同様階段のみ）
万里の長城	2008年以降ロープウェイ新設（頂上の稜線やふもとから見えないよう景観に配慮）

<歴史的建造物における異動等円滑化基準の考え方－高橋氏の見解>

- ・日本の場合、城郭建築、歴史的建造物の大半が木造建築である。「真正性」を確保しながら世界遺産、国宝、重要文化財等における個々の努力や工夫は全国各地で進んでいる。
- ・バリアフリー法では、まず特定建築物に歴史的建造物（国宝、重要文化財、登録文化財等）を追加すること、次に真正な歴史的価値を有する城郭等を除外もしくは緩和規程を設けることが必要になると思われる。
- ・文化財等における観覧者に供する経路は、可能な限り一般公開経路と同じ経路とし、必要に応じて文化財等の保護の観点から取り外し可能な傾斜路、垂直移動設備若しくは代替する移動等円滑化経路を設ける。但し、城郭等他に代替経路が設置できないものにあってはこれを除外する。

■「観光のユニバーサルデザイン 歴史都市と世界遺産のバリアフリー」秋山哲男他著より

- ・「第III部 歴史遺産のユニバーサルデザイン－京都世界遺産を中心に－」の中で、京都の世界遺産について「山」「斜面」「平地」に立地する名所におけるユニバーサルデザインを、「地形のオーセンティシティ」「歴史的なバリアフリー」「現代のバリアフリー対応」の視点から分析。

・地形のオーセンティシティ

オーセンティシティAuthenticityとは、世界遺産として登録するにあたり求められる基準、特に真正さの基準のこと。文化遺産についてはi～viの基準（次ページ参照）があって、真正さについては形状、意匠、材料、位置等がオリジナルな状態を保っているかであり、復元については推測を全く含まずオリジナルに関する完璧・詳細な文章に基づいている場合にのみ認められる。

2008年に平泉のリストへの記載延期が決定した理由の一つに、このオーセンシティの視点から、中尊寺の中心となる金堂の鉄筋コンクリート造の鞘堂（周辺の関係性を奪う）が指

摘されている。

(日本の)文化財保護では、歴史的建造物という「点」だけで考えるが、世界遺産の基準では普遍的価値を直接的かつ具体的に表現しているすべての領域をコアゾーン(核心地域)とし、ほぼ境内全体がコアゾーンとなっており、当著書では神社仏閣等の境内全体、地形に着目してオーセンティシティ(建築学的・技術的な真正さ)を検討した。

・歴史的なバリアフリー :

昔から地形を踏まえてバリアフリー的な整備がされており、例えば山地にある清水寺は厳しいアクセスが「男坂」、やさしいアクセスが「女坂」となっている。斜面にある金閣寺、銀閣寺などは金閣の途中までの下段の庭までは平坦な道となっている。川などが境内を流れていれば橋を架ける。地形を生かしながらバリアフリー経路を整備してきた昔からの対応方法。

・現代的なバリアフリー

経路上でのスロープ、本堂など中心的な建物へのエレベーターの設置など現代的な整備による段差解消。地形的に「山」「斜面」「平地」となるほど本堂までの経路が確保しやすい傾向にあるが、清水寺のように境内から本堂までのバリアフリー経路が確保されている場合もある。

また、本堂の上に登壇可能なのが西本願寺、二条城。

・段差解消方法とオーセンティシティ

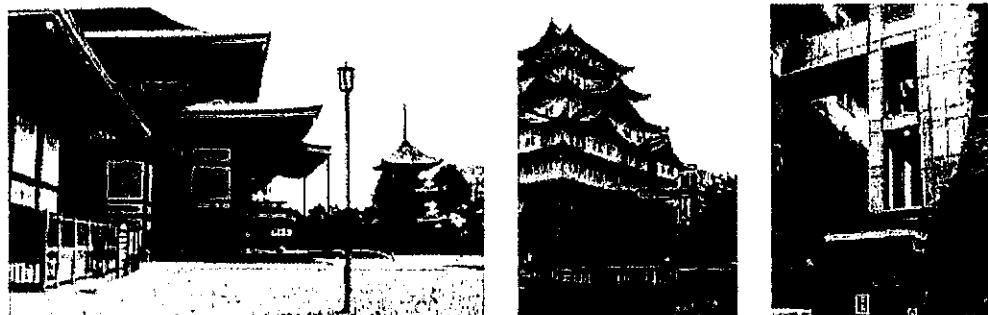
西本願寺の新エレベーター、成田山新勝寺のエレベーターは、建物のデザインに合わせたエレベーターを設置し評価高い。
名古屋城のエレベーターは評価低い。

西本願寺の新旧エレベーター（右側が新、お寺のデザインに合わせたもの）



図 3-2 西本願寺のエレベータ 左
旧エレベータ、右新エレベータで二
つの御堂をつなぐ渡り廊下にとけこ
むようにエレベータシャフトを設置
している

成田山新勝寺のエレベーターと名古屋城のエレベーター



エレベータの事例。左から、成田山新勝寺、名古屋城（遠景と近景）

■世界遺産の基準 観光のユニバーサルデザイン 164 ページ

表1・1 世界遺産の基準

i	人類の創造的才能を表す傑作である
ii	ある期間、あるいは世界のある文化圏において、建築物、技術、記念碑、都市計画、景観設計の発展における人類の価値の重要な交流を示していること
iii	現存する、あるいはすでに消滅した文化的伝統や文明に関する独特な、あるいは稀な証拠を示していること
iv	人類の歴史の重要な段階を物語る建築様式、あるいは建築的または技術的な集合体または景観に関する優れた見本であること
v	ある文化（または複数の文化）を特徴づけるような人類の伝統的集落や土地・海洋利用、あるいは人類と環境の相互作用を示す優れた例であること。特に抗しきれない歴史の流れによってその存続が危うくなっている場合
vi	顕著で普遍的な価値をもつ出来事、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または明白な関連があること（ただし、この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）
vii	類例を見ない自然美および美的要素をもつ優れた自然現象、あるいは地域を含むこと
viii	生命進化の記録、地形形成において進行しつつある重要な地学的過程、あるいは重要な地質学的、自然地理学的特徴を含む、地球の歴史の主要な段階を代表とする顕著な例であること
ix	陸上、淡水域、沿岸および海洋の生態系、動植物群集の進化や発展において、進行しつつある重要な生態学的・生物学的過程を代表する顕著な例であること
x	学術上、あるいは保全上の観点から見て、顕著で普遍的な価値をもつ、絶滅のおそれがある種を含む、生物の多様性の野生状態における保全にとって、もっとも重要な自然の生育地を含むこと

これらのうち i ~ vi で登録されたものが文化遺産、vii ~ x で登録されたものが自然遺産、両方で登録されたものが複合遺産。

■山に立地する境内の地形とバリアフリー対応・車いすのアクセス評価 179~180 ページ

表2・1 山に立地する境内の地形とバリアフリー対応

境内	地形のオーセンティシティ	歴史的なバリアフリー	現代のバリアフリー対応
清水寺	「清水寺參詣曼荼羅図」の分析から境内三つの丘のうち「本堂の建つ丘」と清水寺の由来となる「音羽の滝のある谷」の重要性 ⁶⁶	・男坂、女坂（2ウェイによるアクセス） ・舞台（山上の宗教・眺望空間の確保）	・女坂の車いす対応への改良 ・車いす対応の仮設券売所と新エントランスの設置
醍醐寺	上下醍醐による二つの聖域を持つ橿円形コスモロジーの展開による（醍醐山）の聖域化 ⁶⁷	・なし	・ロープウェイ、ケーブルカー等を導入せず聖地を確保
延暦寺	境内の構成を「三塔、十六谷二別所」にたどえる。3000あまりの堂宇が「谷」を単位に立地。この宗教空間を大学キャンパスにたとえて、都市空間に近い空間構造を読む ⁶⁸	・あじろ解説	・ハイウェイ、ロープウェイ、ケーブルカーによる多様な交通アクセスの設置
高山寺	地形の厳しさを「石段」と「石垣」から文学的に読む ⁶⁹	・土地造成をヒューマンスケールで展開	・なし

表2・2 山に立地する境内での車いすアクセス評価

山	寺名	①本堂などの中心的な施設、建物への境内出入口からのアクセス確保の有無		②境内の回遊性が確保されている評価	平均点	③本堂への登壇が可能な評価	平均点	①②③の総合評価	
		○	△			△		計	平均
延暦寺	清水寺	○	△	3		△	1	4	
	醍醐寺	×	×	0		×	0	0	
	東塔	○	○	4		×	0	4	
	西塔	×	×	0	1	×	0	0	1.1
	横川	×	×	0		×	0	0	
	飯堂	×	×	0		—	0	0	
	高山寺	×	×	0		—	0	0	

※○：2点 △：1点 ×、—：0点 (—：参拝不可)

■斜面に立地する境内の地形とバリアフリー対応・車いすのアクセス評価 189 ページ

表2-3 斜面に立地する境内の地形とバリアフリー対応

境内	地形のオーセンティシティ	歴史的なバリアフリー	現代のバリアフリー対応	に段差による対応が可能な場合
西芳寺	・二段構成 ・下段空間の重い**	・下段の回遊路の確保	・なし	
金閣寺	テラス式庭園構成	・二段構成	・下段の回遊路の確保、	・下段回遊路の車いす対応
		・二段構成	・下段の回遊路の確保	・下段回遊路の車いす対応
銀閣寺	テラス式庭園構成	・三段構成	・なし	・別ルートによるアクセスの確保 ・階段に併設したスロープ
		・地形のスロープ	・段差のないスロープ	・なし
龍安寺	微地形の土地造成によって石庭の視覚効果の向上	・なし	・大階段をさけて、別ルートによる石庭へのアクセスの確保	
	・池を掘って山を築き、そこに枯山水の石庭をつくる ・借景	・なし	・石段の一部に木製スロープの設置	

表2-4 斜面の車いすアクセス評価

	①本堂などの中心的な施設、建物への境内出入口からのアクセス確保の有無	②境内の回遊性が確保されている	評価	平均点	③本堂への登場が可能か	評価	平均点	④⑤⑥の総合評価	平均
					計	平均			
斜面	西芳寺	—	—	0	2.4	—	0	2.4	0
	金閣寺	○	△	3		—	0		3
	銀閣寺	○	△	3		—	0		3
	仁和寺	○	△	3		×	0		3
	宇治上神社	△	△	2		—	0		2
	龍安寺	○	△	3		×	0		3
	天龍寺	○	△	3		×	0		3

※○:2点 △:1点 ×、—:0点 (—:参考不可)

■平地に立地する境内の地形とバリアフリー対応・車いすのアクセス評価 201 ページ

表2-5 平地に立地する境内のバリアフリー対応

(1) 川			
	地形のオーセンティシティ	歴史的なバリアフリー	現代のバリアフリー対応
上賀茂神社 下鴨神社	・山が象徴 ・川が神域の境界	・橋（川のアクセスとして）	・なし
平等院	・川の流れ谷が原風景で主な建物は洪水対応の高床式建物**	・川の洪水対応としての高床式建物	・砂利歩道対応のムーン・ランディング型車いすの貸出
(2) 桟橋			
東寺	・平面的で規則的な柵監配置	建物バリアへの対応	・可動式仮設スロープの設置
西本願寺	・平面的廊腰の中二つの巨大な空洞		・仮設スロープとエレベーターの設置 ・本格的なエレベーター新設
二条城	・平地の土地造成		・仮設スロープを内包した斯エントランス空間の設置 ・建物内での車いす対応の回遊路の確保

表2-6 平地の車いすアクセス評価

	①本堂などの中心的な施設、建物への境内出入口からのアクセス確保の有無	②境内の回遊性が確保されている	評価	平均点	③本堂への登場が可能か	評価	平均点	④⑤⑥の総合評価	平均
					計	平均			
平地	上賀茂神社	○	○	4	3.8	—	0	4.7	4
	下鴨神社	○	○	4		—	0		4
	平等院	○	○	4		×	0		4
	東寺	○	○	4		△	1		5
	西本願寺	○	○	4		○	2		6
	二条城	○	△	3		○	2		5

※○:2点 △:1点 ×、—:0点 (—:参考不可)

■現代的対応とオーセンシティ（著名な建築物の比較） 207 ページ

表3・2 オーセンティシティ評価集計表

オーセンティシティ評価		評価	②スケール	③素材	④位置	⑤接し方	⑥、 デザイン	⑦、 デザイン	⑧ 環境	総合 評価
建 物 設 施 差	Aスロープ	善光寺	×	○	○	×	○	△		5.8
	Bエレベー タ	名古屋城	×	×	△	△	△	×		2.5
	Cエスカレ ーター	成田山新勝寺	○	○	○	○	○	○		10.0
	D建物 (エントランス)	日枝神社	×	×	—	—	○	—		1.7
E交 通 施 設	Eスロープ	ペルージャ	×	×	—	—	○	—		1.7
	D建物 (エントランス)	三十三間堂	×	×	×	△	○	×		2.5
	Cエスカレ ーター	京都国立博物館	○	○	○	○	○	○		10.0
F施 設	Fエレベー タ	ルーブル美術館	○	○	○	○	○	○		10.0
	Gケーブル カー	石清水八幡宮						×	0	
	Hモノカル	モンマルトル					○		0	

※○：2点 △：1点 ×、—：0点で、総合評価は10点満点に換算

（2）京都の世界遺産の事例

オーセンティシティ評価		評価	②スケール	③素材	④位置	⑤接し方	⑥、 デザイン	⑦、 デザイン	⑧、 デザイン	⑨ 環境	総合 評価
建 物 設 施 差	Aスロープ	清水寺	△	△	○	○	△				7.0
	Aスロープ	二条城	×	○	○	△	○				7.0
	Aスロープ	東寺	○	○	○	△	×				7.0
	Aスロープ	西本願寺	×	△	○	△	×				4.0
Bエレベー タ	Bエレベー タ	西本願寺	旧	△	△	○	○	△	△		6.7
	Bエレベー タ	西本願寺	新	○	○	○	○	○	○		10.0
D建物 (エントランス)	D建物 (エントランス)	清水寺	○	○	○	○	×	△			7.5
	D建物 (エントランス)	二条城	×	×	△	×	×	×			0.8
E交通 施設	Eスロープ	清水寺(迂回路)	×	×	○	○			△		5.0
	Eスロープ	清水寺(別ルート)	○	△	○	○			△		6.0
	Eスロープ	仁和寺(別ルート)	○	△	×	○			△		6.0
	Eスロープ	下醍醐							工事中		—
	Eスロープ	天龍寺	×	×	○	○			△		5.0
	Eスロープ	龍安寺	×	○	×	○			○		6.0
	Eスロープ	ケーブルカー	延暦寺							×	0
	Eスロープ	ハイウェイ	延徳寺							×	0

※○：2点 △：1点 ×、—：0点で、総合評価は10点満点に換算

木造天守の昇降に関する考察

□地上から大天守上階へ直接昇降する方法

内容	状況	検討内容	検討結果	今後の見込み	備考
1 外付けエレベーター	・特別史跡のため、新たに掘削が生じる基礎や杭は不可 ・現状のエレベーター棟と同じ大きさの基礎で可能な範囲	・基礎の大きさ深さ 2 m、上部構造を想定し、長期荷重と短期荷重を検証 ・トランク付き 11 人乗りエレベーターと駅舎で使用する通過型エレベーターにて検証。荷重を軽減するため屋外階段を併設にて想定。	上階へは到達不可能 大天守閣 1 階のみ	・上階にアクセスできる外付けエレベーターは技術的に不可能	・名古屋城本丸エリアのオーセンティシティの観点から、重大な問題あり。
2 ドローン等新技術	・地上から直接上階へ車椅子ごとアクセスすることを想定	・具体的な検討は今後行う。	技術開発及び法制整備が必要	・ドローンの活用開発が世界各地で行われている。 ・名古屋城を特区として、技術開発を促進する	

□地上から大天守地階・1 階へ昇降する方法

内容	状況	検討内容	検討結果	今後の見込み	備考
1 大天守 1 階への外付けエレベーター	・特別史跡のため、新たに掘削が生じる基礎や杭は不可 ・現状のエレベーター棟と同じ大きさの基礎で可能な範囲	・基礎の大きさ深さ 2 m、上部構造を想定し、長期荷重と短期荷重を検証 ・トランク付き 11 人乗りエレベーターと駅舎で使用する通過型エレベーターにて検証。荷重を軽減するため屋外階段を併設にて想定。	上階へは到達不可能 大天守閣 1 階のみ	・エレベーターから天守閣への出入りにおいて、史実にない開口が必要。 ・EV 等からの渡り廊下により、地階の取り取りの揚戸が可動しなくなる。	・名古屋城本丸エリアのオーセンティシティの観点から、重大な問題あり。 ・RC 天守閣である大阪城に設置事例有り ・宇都宮城では土居に外部 EV 設置
2 急勾配のスロープ設置	・地上から小天守へは階段のみ ・橋台前後に階段あり	・小天守への階段の一部に同勾配スロープ設置。 1/8~1/10 程度。 ・橋台の巾半分程度にて小天守出口から大天守閣入口まで、スロープにて接続。1/10 程度。	技術的には可能 大天守閣地階まで	・手すりなどの検討必要。 ・介護者による上下の行き来となる。	
3 緩勾配のスロープ設置	・地上から小天守へは階段のみ ・橋台前後に階段あり	・小天守入口から階段部分及び本丸御殿との間に緩やかなスロープを設置。1/15 程度。 ・橋台の巾半分程度にて小天守出口から大天守閣入口まで、スロープにて接続。1/10 程度。	技術的には可能 大天守閣地階まで	・本丸御殿との間に設置可能か精査が必要。 ・手すりなどの検討必要。	
4 小天守までの外付けエレベーター	・特別史跡のため、新たに掘削が生じる基礎や杭は不可 ・大天守 1 階より低い昇降で可能	・階段が近接するため、エレベーターのみの設置。 ・橋台の巾半分程度にて小天守出口から大天守閣入口まで、スロープにて接続。1/10 程度	技術的には可能 大天守閣地階まで	・地表から 500mm の基礎で可能か、エレベーター設置レベルまでのスロープが可能か。	・名古屋城本丸エリアのオーセンティシティの観点からの検証が必要となる。
5 小天守までのリフト	・特別史跡のため、新たに掘削が生じる基礎や杭は不可 ・大天守 1 階より低い昇降でよい	・階段が近接するため、リフトのみの設置。 ・橋台の巾半分程度にて小天守出口から大天守閣入口まで、スロープにて接続。1/10 程度	リフトの設置は今後検討 大天守閣地階まで	・リフト乗降レベルまでのスロープ必要	・国宝、指定文化財にて本堂ヘリフトの設置事例がある。 (西本願寺、専修寺、成相寺)

□大天守内部を昇降する方法

内容	状況	検討内容	検討結果	今後の見込み	備考
1 1人乗り エレベーター (箱: 1.4m×1.35m トランク: 0.65m)	・独立したエレベーターのための鉄骨による構造物と基礎が必要	・車いす利用者以外の高齢者等も比較的円滑に昇降が可能でストレッチャーの対応ができる。 ・柱、梁の位置を大幅に変更し構造補強する必要があり、史実に忠実な復元ができない。	内部の柱の位置より、地階～4階までの設置となる	・主架構の柱、梁が一部欠損した状態で、木造構造物がどのように成立するのか検討が必要	・史実に忠実な復元と認められない可能性が高い。 ・木造復元された金沢城菱櫓(1～2階)に設置事例有り
2 5人乗り エレベーター (箱: 0.92m×1.0m)	・木架構にレール取付け用鉄骨を取り付けて設置可能	・小さめの車椅子がはある程度の大きさ ・3階までなら主たる柱、梁に一部欠損させる程度で設置できる。梁を1本無くせば4階まで設置できる。	地階～3階または4階まで設置できる	・史実に忠実な復元と認められる範囲で、どのように設置できるのか検討が必要。	・木造天守内部にはエレベーター設置の事例はない ・RC天守閣でもエレベーター設置は22城のうち5城(大阪城、名古屋城、岡山城、上山城、熊本城(予定))にすぎない。
3 垂直式車いす昇降機 (段差解消機)	・段差の解消するため に高さ 4.0mまで設置可能。	・地階～1階は 4.2m、1～2階は 3.9mのため設置可能性あり ・階をまたいだ場合、エレベーターと解釈される可能性あり	地階～1階または2階まで設置できる可能性あり	・主架構である柱、梁に影響なく設置可能か検討が必要。 ・階をまたいでよいのか、確認が必要	・金沢城菱櫓(木造復元)に設置の事例あり ただし、1階床部分の段差解消の意味合い である可能性あり
4 勾配式車いす昇降機	・階段の上にレールを設置して車いすごと昇降する。階高 7.5 mまで設置可能。	・通常の勾配の階段を復元階段と別に設ければ、地階～1階は 4.2m、1～2階は 3.9mのため設置可能性あり。 ・2～3階は 6.8mの階高であるが、踊場を設ければ設置の可能性あり。	地階～1階または2階または3階まで設置できる可能性あり	・主架構である柱、梁に影響なく設置可能か検討が必要。	・木造復元された金沢城菱櫓、首里城(国宝)に設置の事例あり。1階から2階または、段差のある1階への階段に設置。
5 チェアリフト	・復元された階段の手摺に設置 ・階段は連続していないため各階にて乗換え必要	・チェアリフト利用時は、一般動線を止めなければならない。避難動線も妨げてしまう。 ・各階で車椅子を用意して乗換える必要あり。	地階～5階まで設置可能	・チェアリフト等に乗り換えられない人は利用できない。 ・避難時、通常時の階段幅が限定されてしまう。	・木造天守にチェアリフト設置事例なし ・RC天守閣では小倉城に設置事例あり ・木造復元された金沢城菱櫓、首里城(国宝)に設置事例あり
6 人力による垂直移動	・機器設置基準によらない方法にて行う	・設置基準によらない方法が考えられるのか。 ・一部床をはずしたり、踊り場的な場所を設けることが必要と考えられる。	運営者・設計者・利用者による取組みが必要	・法的な問題がないか慎重な検討が必要。	
7 階段昇降機	・階段を上り下りする機器をスタッフが取り扱って利用者を昇降させる。	・復元される階段の勾配が急なため、対応できる機器が開発される必要がある。	技術開発が必要	・技術開発をする企業の発掘と支援が必要。 ・急な階段を昇降することが、恐怖感を感じないか検証が必要。	・RC天守閣である唐津城にて導入事例あり。 最上階まで階段昇降機にて昇降可能。 ・松江城でも外部の石段等の昇降に利用。
8 運営による対応	・スタッフによる昇降方法を考える	・具体的にどのような対応で可能か検討必要。 ・バリアフリーデイを設けて、重点的に対応する日を設ける。	運営者・設計者・利用者による取組みが必要	・天守の公開範囲や時間といったプログラムの検討、避難計画の検討と合わせて、バリアフリーへの対応方法を検討する。	・面積が大きな天守のため、公開範囲を限定したり、日替わりにしたりすることで、より魅力ある天守として実現する。

□天守を体感する方法

- ・天守内部を体感できる施設を設ける。
- ・実際に使用した木材や仕口・架構の実物大を展示する施設を設ける。

NO	天守閣の建築年	天守閣の構造	天守閣の規模	天守閣内エレベー	エレベーター設置階数	エレベーター定員、数	その他 バリアフリー対	階段	部署	担当者	TEL	メール	聞き取り内容 赤:渡邊主幹、橙:3/5~7
----	---------	--------	--------	----------	------------	------------	----------------	----	----	-----	-----	-----	--------------------------

NO		天守閣の建築年		天守閣の構造	天守閣の規模	天守閣内エレベー	エレベーター設置階数	エレベーター定員、数	その他バリアフリー対	階段	部署	担当者	TEL	メール	聞き取り内容 赤:渡邊主幹、橙:3/5~7
----	--	---------	--	--------	--------	----------	------------	------------	------------	----	----	-----	-----	-----	--------------------------

NO		天守閣の建築年		天守閣の構造	天守閣の規模	天守閣内エレベー	エレベーター設置階数	エレベーター定員、数	その他バリアフリー対	階段	部署	担当者	TEL	メール	聞き取り内容 赤:渡邊主幹、橙:3/5~7
----	--	---------	--	--------	--------	----------	------------	------------	------------	----	----	-----	-----	-----	--------------------------

NO		天守閣の建築年		天守閣の構造	天守閣の規模	天守閣内エレベー	エレベーター設置階数	エレベーター定員、数	その他バリアフリー対	階段	部署	担当者	TEL	メール	聞き取り内容 赤:渡邊主幹、橙:3/5~7
----	--	---------	--	--------	--------	----------	------------	------------	------------	----	----	-----	-----	-----	--------------------------

